

The EDGE

Vol.17
2008年7月号

特集 1

マイクロソフトの相互運用性原則

Microsoft's Interoperability Principles

特集 2

グリーンITの推進による 地球温暖化対策

特集 3

Bill Gates 来日 Government Leaders Forum Asia 2008

先進技術

パートナー企業との密接な連携により
国内のイノベーションを促進

イベントレポート

- ・アジア知的財産フォーラム in KAWASAKI
- ・樋口代表執行役社長 就任披露パーティー
- ・東京工業大学 学術国際情報センター セミナー

企業市民活動

電子行政サービスの利便性を高めるために
政府と協力して「ルート証明書」を配布

政策課題に対するマイクロソフトの取り組みに関する Web サイト
Information for ICT Policy and Opinion Leaders
<http://www.microsoft.com/japan/mspolicypositions/>

Microsoft

Bill Gates 来日 & Government Leaders Forum Asia 2008

2008年5月7日、マイクロソフトコーポレーションの会長ビル・ゲイツが来日し、日本経済団体連合会（日本経団連）の常任理事会と日米議員連盟のレセプションにおいて、日本市場の重要性やITの未来についての講演をしました。その後ゲイツは、日本から多数のお客様

や講演者が出席された GLF※ Asia 2008（5月8日-9日、ジャカルタにて開催）に参加し、未来の教育・医療・持続可能な社会についてアジア各国の有識者と積極的な意見交換をしました。本特集では、来日時にゲイツが行った講演の内容と GLF Asia 2008 の模様を紹介します。

※GLF：Government Leaders Forum

日本経団連 常任理事会 ビル・ゲイツ講演

日本市場におけるパートナーシップの強化と 次の10年に起きるイノベーションを展望



PCの将来像

2008年5月7日に開催された日本経団連の常任理事会において、マイクロソフトコーポレーションの会長であるビル・ゲイツは、今日、人々の生活の一部となっているPCが、今後デバイスやソフトウェアの一層の進化によって、いかに操作が簡単になるかについて話しました。彼の描くビジョンによれば、近い将来、人々は隣人に話しかけるように言葉でコンピュータに情報を入力し、あるいは壁に向かって身振り手振りを行うことで、情報をコントロールできるようになります。コンピュータの存在など意識することなく、自然な振る舞いで誰もが情報を操れる時代の到来は、ビジネスの世界においても、今までには無い変化をもたらします。ビジネス情報はすべてデジタル化され、ホワイトボードが進化したインテリジェンスディスプレイなどを使って、可視化された情報を自由に加工して市場分析や経営分析戦略立案などが容易に行えるようにな

ります。実際、マイクロソフトはこれらのビジョンを実現可能にする「Surface（タッチパネル化されたテーブルで情報を自在にコントロールする技術）」や「Unified Communication（音声デジタル化して人と情報をつなぐソリューション）」などの技術に対して、年間80億ドル以上の投資を続けており、その成果はまもなく市場に提供可能だとゲイツ氏は語っています。

インターネットとPCの融合が変える 次の10年

PCは過去20年間に急速な進化を遂げましたが、その過程における重要なターニングポイントはインターネットの誕生でした。インターネットにより、情報はPCを飛び出し、時間も空間も越えて世界を駆け巡り、世界の反対側で起きている現実でさえも、人々はインターネットとPCを通してリアルタイムに知ることが可能になりました。その変化は、「革命」と呼ぶにふさわしいものでした。ゲ

イツは、PCとインターネットの融合は、まだ始まったばかりで、これからさらに大きな変化が起きると予見しています。その変化の核は、PCやサーバーにインストールされたソフトウェアとインターネット上のサービスが連動する「ソフトウェア+サービス」であり、彼はその変化を「次の10年間で起きる変化は過去の20年間に起きた以上の劇的なものになる」と表現しています。

ITイノベーションを生むためには 政策が重要

「ソフトウェア+サービス」の実現がもたらす変化について、まず教育分野では、人々の創造力をいっそう豊かにする変革が起きます。5年後あるいは10年後の学校では、紙の教科書は時代遅れとなり、教室では、子どもたちがタブレットPCを活用したデジタル教科書を手、手書き入力やタッチ操作によって世界中の情報を呼び出し、知識を活用し、音声、映像などをインタラクティブ

ブに活用した授業が行われます。大学では、すでにインターネットで講義を配信する取り組みが進んでいますが、今後は国境を超えた研究者同士の連携が一層盛んになり、革新的な研究成果が次々に発表されるでしょう。

また、医療分野では、医師中心の医療から患者中心の医療への変化が起きます。つまり、現在医師や病院が個々に保管している診療情報や服薬履歴、健康診断データなどは、いずれインターネット上で患者自身がそれぞれ管理できるようになり、そして高いセキュリティが実装されたインターネット上で、人々は自分自身の健康状態を把握し、能動的に自身の健康状態を向上させる「予防医療」を実現することになります。たとえば旅行先で事故に遭った時などは、地元の医師に患者の医療情報へのアクセス権を提供するだけで、最適な診療を受けられるようになるのです。

さらに、行政分野では、現在各国が推進している電子政府が本格化し、業務効率化による歳出削減、インターネットを利用した市民サービス向上が実現します。インターネットのインパクトは、先ごろ行われた米国の選挙戦にも及びました。各候補がインターネットで有権者に詳細な情報を発信したり、コミュニケーションを図ったりしたことは、活用の好例と言っているでしょう。

ゲイツは、こうしたインターネットを活

用したイノベーションを実現するうえでは、言うまでもなく「プライバシーの原則」と「相互運用性および標準化」を推進する政府の指導力が不可欠になると語りました。

日本の強みであるコンテンツ力を活かす改革を

日常生活と切り離せないテレビも、これからはインターネットとの融合が進み、視聴方法が変わっていくとゲイツは展望します。インターネットを活用して放送コンテンツが IP 化されることによって、オンデマンド放送、インタラクティブ放送が実現し、テレビはよりコンテンツが増え、有意義なものとなります。たとえば、ニュース番組を見ていて気になる話題があれば、画面に直接入力して詳細な情報へアクセスでき、番組内でも好みのコンテンツをピックアップして視聴することが可能になります。

しかし、ゲイツは、「日本では放送コンテンツをインターネットで視聴するための環境が十分ではない」と心配します。彼は、日本はブロードバンドの普及率、低価格化、コンテンツの質において世界トップレベルであるものの、それを利活用するための施策に課題があると指摘したうえで、日本政府が指導力を発揮し、コンテンツ流通を促進させる施策を整備すれば、日本の強みであるコンテンツ力を世界中に発信でき

るはずだ、と期待を寄せました。

日本企業とのパートナーシップ強化と創造的資本主義の実現に向けて

ゲイツは、1 時間に及ぶ講演を、日本市場への謝辞で締めくくりました。マイクロソフトが成長を続けた大きな理由の 1 つとして、日本企業との緊密な連携を挙げ、彼自身がいかに日本を重要なパートナーだと位置付けているかを語りました。また、ゲイツは、今後もマイクロソフトは日本企業との連携を強化し、継続的な投資を続けると約束すると共に、日本企業とのコラボレーションによってさらなるイノベーションが創出されることに、彼自身が大きな期待を抱いていると語りました。

最後にゲイツは、6 月以降に予定している自身の退任に触れ、今後はビル & メリンダ・ゲイツ財団 (Bill & Melinda Gates Foundation) の活動に注力し、政府や NPO、企業が協力して資本主義をよりよいシステムへと変革させる創造的資本主義 (Creative Capitalism) を実現し、豊かさの不均衡による現状の問題を解決していきたいと述べました。そして今後は、財団活動の中で日本企業の CSR 活動と協調していきたいと希望を述べ、また、そこで生まれる新しいパートナーシップに大きな期待をしていると語り、スピーチを終えました。

日米の議員と交流を深めたビル・ゲイツ ~日米議員連盟 レセプション~

2008 年 5 月 7 日、ホテルニューオータニで日米議員連盟主催によるレセプションが行われ、ビル・ゲイツもゲストとして参加しました。事務局長である塩崎恭久氏の司会により、日米議員連盟会長の中山太郎氏や日米議員連盟幹事長の小坂憲次氏の挨拶が行われた後、ゲイツはスピーチを行いました。スピーチ後の歓談の席でゲイツは、参加された多くの議員の方々と情報交換を行い、交流を深めました。



左から日米議員連盟幹事長 小坂憲次氏、日米議員連盟会長 中山太郎氏、ビル・ゲイツ、日米議員連盟副会長 土肥隆一氏、事務局長 塩崎恭久氏

Government Leaders Forum (GLF) Asia 2008

2008年5月8日-9日にジャカルタ(インドネシア)でアジアにおける各界のリーダーが一堂に会し、アジア太平洋地域固有のITにかかわる課題と機会を議論するGLF Asia 2008が開催されました。



左からマイクロソフトコーポレーションのクレイグ マンディ、インドネシア大統領のユドヨノ氏、ビル ゲイツ

Government Leaders Forum (GLF) Asia とは

各界のリーダーが一堂に会し、テーマとなる分野における実績や経験を共有し、アジア太平洋地域固有の課題と将来の可能性を議論するイベントで、今回で4度目を迎えます。「参加型ディスカッション」のほか、ITの可能性を探る「技術デ

モンストレーション」、官民パートナーシップのベストプラクティスを紹介する「ケーススタディ」、また先見的な基調講演を通してテーマを掘り下げ、経験に裏付けられた多様な視点が加わることで、大変活気のあるフォーラムとなっています。

GLF Asia 2008 のテーマは「教育」「医療」「持続可能な経済成長」

5

月8日から9日にかけて、政治、経済、教育、医療など各界で活躍するアジア各国のリーダーが、本年度4年目を迎えるGLF Asia 2008に参加するためにインドネシアの首都ジャカルタに集結しました。

GLF Asia は、アジア太平洋地域の各国が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、ITを活用した事例や経験を共有すると

共に、国境を越えた人的ネットワークを育み、自国の発展ならびに今後のアジア全体の繁栄に向けた有意義な議論を交わす場を提供することにあります。

本年の主要テーマである「教育」「医療」「持続可能な経済成長」は、密接な関連を持つアジア各国共通の政策課題です。国民の能力を発揮し国力を高めるために必要な「教育」と、国民の生命や健康を

維持するために欠かせない「医療」が充実することによって、循環型社会と経済発展を両立させる「持続可能な経済成長」が可能になるからです。

GLF Asia 2008 では、3つのテーマに対して各国のリーダーによるスピーチやプレゼンテーション、ディスカッションが数多く行われ、参加者より意義深い国際会議だったと高い評価を得ました。

次世代を担う人材を育成するために、ITをどう活用するべきか

ピ

ビジネス界では、さまざまな利用形態が生み出されてきたITですが、教育現場におけるITの利用は、まだ十分とはいえません。確かに黒板はホワイトボードに変わり、PowerPointを利用した授業も行われていますが、ITが教育現場にもたらしうる可能性を、人々はまだ最大限に活かしているとはいえません状況です。

GLFの第1セッション「教育におけるITの利活用」のパネルディスカッションに登壇した慶應義塾常任理事の村井純教授は、その課題に対し、「インターネットの利用」並びに「ソフトウェア+サービス」の概念がもたらす可能性について紹介しました。「ソフトウェア+サービス」について村井氏は、インターネットのインフラを用いて、必要な時に必要な分だけソフトウェ

アにアクセスできること、あるいは1つの学校で開発されたコンテンツを地域、国境を越えて共有しあうなど、教育者・学生の想像力を引き出すしくみを実現できるのではないかと言及し、このような教育におけるITの利活用には、政府の継続した施策、並びに支援が不可欠であると強調しました。

また、村井氏は、現在率いているSOI (School on the Internet) Asia Project^{※1}の概要も紹介しました。これは「世界中の学ぶ意欲を持つ人々に、従来の制限や境界にとらわれず、デジタルコミュニケーションを基盤とした高度な教育と研究機会を提供する」ことを目的に1997年9月より活動が開始されたプロジェクトです。ケーブル敷設が困難な東南アジア地域の離島でも衛星によるインターネットを活用し、

2007年9月の時点で、13か国・27大学が日本から発信される講義内容を共有しています。

続くディスカッションフォーラムでは、慶應義塾大学SFC研究所所長の國領二郎教授が、イノベーション創出の核となる大学の将来像についてプレゼンテーションを行うと共に、湘南藤沢キャンパスで実践しているインタラクティブクラスルームのデモを行い、参加者と活発な議論を交わしました。同ディスカッションでは、マイクロソフトとインド政府の取り組みによって、すでに16万人の教員にコンピュータリテラシー向上を実現したICTプログラム (Project Shiksha) や、中国の清華大学が進めるデジタルキャンパスなど、大学運営におけるIT利活用の先進事例も紹介されました。

インターネットとPCは現代のINCUNABULA

医 療セッションで基調講演を行った日本医療政策機構代表理事の黒川清氏は、PCとインターネットこそが近年における“INCUNABULA(インキュナブラ)※2”となり、世界の在り方にパラダイムシフトを起こしたと語りました。つまり、インターネット上にある写真、映像、音、テキストが、新聞やテレビでは伝わらない真実を瞬時に世界に伝えたことにより、世界中の人々はその事実を目の当たりにし、多くの志ある人々や企業、団体を動かしたのです。NPO、NGO、企業のフィランソピー活動、CSR活動、CGR (Corporate Global Responsibility) 活動は、その一例です。

黒川氏は、近年の医療分野の飛躍的な進歩について認めたものの、課題は未

だ山積しており、ODA、世界銀行、IMFなどの支援活動には限界があると話しました。そして、人類が直面する、地球規模の課題として「2Cs & 3Fs (Climate Change、Fuel、Food、Feed)」を挙げ、人類がさらなる繁栄を享受するには、医療や貧困の問題を研究すると共に、先見力のあるリーダーを育てる教育が重要だと語りました。

黒川氏は今こそITによる専門性と知識の集約、民意によって持続可能な社会の実現に向けて立ち上がる時だと、参加者全員に力強いメッセージを発信し、基調講演を終えました。

パネル ディスカッションでは、日本医療情報学会理事の山本隆一氏が、日本の医療分野のIT活用についての歴史的

経緯を紹介したうえで、今後ITの利活用が含まれる医療改革を促進し、患者中心の医療を実現してい

くうえで、相互運用性の確保とコストの安定性、官民の連携の重要性を説きました。

ディスカッションフォーラムに参加した国立成育医療センターの山野辺裕二氏は、Xboxを利用した同センターの医療情報システムに関するプレゼンテーションを行い、同セッションで紹介された、タイのバムルングラード病院※3やシンガポールのチャンギ病院※4など各国の医療関係者と活発な意見交換を行いました。



基調講演を行う黒川氏

持続可能な経済成長に向けた政府の取り組み

持 続可能な経済成長に関するセッションでは、各国の政策立案者や行政サービスにかかわるリーダーによるプレゼンテーションが行われました。

基調講演ではインドネシア政府の通商大臣であるマリバンゲツ氏によるインドネシアの電子政府推進における具体的な取り組みが紹介されました。続くパネル ディスカッションでは、広島市長の秋葉忠利氏から、広島市が推進する地域活性化や市民生活向上のためのプログラム、世界平和を訴えかける活動などが紹介されました。特に広島市が主導したITを活用した社会起業家育成支援の事例については、会場の関心が高く、多くの質問が寄せられました。

ディスカッションフォーラムでは、京都

府知事の猿渡知之氏による京都府におけるデータベースを活用した電子行政システムの事例が紹介され、各国の地方政府に共通する市民サービスや業務効率化の課題を解決する先進事例として大きな注目を集めました。

閉会にあたってビル・ゲイツは、各国からの登壇者と共にデモを交えながら、シンガポール政府におけるe-Governmentの成功例や、韓国のデジタルシティプロジェクト、タブレットPCとデジタル教科書を使ったU-Learningの事例などを紹介した後、最高研究戦略責任者のクレイグマンディーと共に、ヘルスケアの未来像についてビデオを交えた講演をしました。

フォーラムの締めくくりには、インドネシア大統領のスシロ・バンバン・ユドヨノ氏

が登場し、まずインドネシアの電子政府プロジェクトや、ITリテラシーの拡大、ITを活用した経済発展の各種施策について事例を交えながら紹介しました。そのうえで

大統領は「Magic of Software・新世代のソフトウェアが描く未来像」に対する自身が持つ大きな期待について、また、政府・民間・非営利団体との協調関係による「創造的資本主義・Creative Capitalism」が実を結び、世界の教育・医療・持続可能な経済発展における課題が解決されることへの期待について講演し、2日間のフォーラムの幕が閉じられました。



基調講演を行うユドヨノ大統領

※1) SOI Asia Project:
<http://www.soi.wide.ad.jp/soi-asia/about/index-j.html>

※2) INCUNABULA:15世紀に西欧で作られた最初期の活字印刷本。西欧全域に情報を伝播させる役割を果たし、その影響は世界を変える革命にまでつながったといわれている。

※3) バムルングラード病院:メディカル マネジメントシステムなどITを駆使した先進的な病院として世界各国から見学者が絶えない。<http://www.bumrungrad.com/thailand-hospital-jp/>

※4) チャンギ病院:患者中心の医療実現を目指して、新しくヘルスケアポータルを立ち上げている。<http://www.myhealth.sg/>

GLF Asia 2008 参加者からのコメント

インドネシア大統領 スシロ・バンバン・ユドヨノ氏

世界の貧困層が、知識社会に基づくグローバル経済から置き去りにされることは、世界の平和と安全への脅威といえます。この国家的な脅威を避けられるような国家運営を目指さなくてはなりません。

慶應義塾 常任理事 村井純氏

アジア各国と近い連携は、各国の共存・アジア地域の共栄のためには不可欠です。日本は確固たる方針を持ってアジア外交を進めていく必要があると考えます。

広島市長 秋葉忠利氏

今回の会議に参加して、改めてITの利活用における人間性(心)の大切さを認識しました。また、インドネシアのような多様性に富む国の事例を多数聞けた事は大変有意義でした。日本人は、よりアジアに目を向け、その向上心を感じ取ってほしいと思います。そして一人ひとりが国家という枠を超えて、個人として人間のあり方を考え、責任感を持って生きていくことが必要だと考えます。

マイクロソフト会長 ビル・ゲイツ

マイクロソフトでは、ITの力を利用することによって人々はより豊かな生活を享受できると信じています。そして、そのような技術の浸透に最も効果的な方法として、官民の近い連携が最も重要だと考えています。

日本医療政策機構 代表理事 黒川清氏

多分野に渡る専門家が一同に介し、自由な発言ができる場として(GLFは)大変有効だと考えます。国内に議論が開けていないことも魅力で有り、目的・テーマの設定・人選にも非常に工夫が感じられます。